シマフクロウの森保全活動　「2011年度植樹知床地区」　2011年評価報告書

2011年11月16日
環境プランナー協議会
恒藤克彦

■ 評価の対象と目的

公益財団法人日本野鳥の会が実施した「シマフクロウの森を育てよう！　プロジェクト」による森づくりで2011年に植樹された知床1次地区。植樹後約0.5年になる。

①生物多様性保全からみた環境負荷の把握が実施されている

②保全活動の記録管理（作業日誌等による）が実施されている

ことによって、保全活動の管理の履歴が適切に記録されていることを評価する。

■最近1年間の事象

- 2011年5月12日～5月31日、防鹿柵設置工事
- 2011年5月27日、6月2日、地ごしらえ
- 2011年6月3日、植樹
- 2011年7月27日、下刈工事
- 2011年8月2日、不足苗木植付業務

■ 実施した評価の概要

評価手続きの概要は以下のとおりである。

1. 環境負荷の把握のための作業日誌の閲覧
   - 2011年5月12日～5月31日に実施された防鹿柵設置工事、2011年5月27日～6月2日に実施された地ごしらえ、2011年6月3日に実施された植樹作業（1）、2011年8月2日に実施された不足苗木の植樹作業（2）の「植樹および付帯作業確認報告書」。
   - 2011年7月27日に実施された下刈工事の「環境負荷の把握」作業日誌。
2. 2011年9月27日野鳥保護区事業所発行の「現地検分資料」の閲覧
3. 現地検分
   - 2011年9月29日実施。
4. 日本野鳥の会、現地管理者へのインタビュー
   - サンクチュアリ室　富岡室長、野鳥保護区事業所　小畑レンジャーにインタビュー。

■ 結論

結論は以下のとおりである。

1. 提供された情報の内容は、認定基準を満たしている。
2. 環境プランニング学会「森づくり・里山里林保全アセスメントの手引き」の基準により87点/100点となり、「優良」と評価する。

■添付資料

- 「2011年度植樹知床地区」2011年評価シート
- シマフクロウの森「2011年度植樹知床地区」2011年現地検分報告書

以上

プロジェクト名　"The forest of the fish owl"プロジェクト

2011年度植樹　知床地区

作成者　恒藤克彦

作成日　2011 年 11 月 16 日

承認者

評点合計	87　点/100点

1．活動の概要　　適合項目数　4　評点の平均値　5.0　　評点　20　点/20点

	評価項目	適否	評点	観察事項の内容
①	活動目的	適	5	・植樹によって森林生物が生息可能な森をつくる ・樹木を育成して、二酸化炭素を吸収する ・絶滅危惧種シマフクロウを救う
②	活動計画	適	5	・5年間の管理作業を計画している ・100年後をめざしたイメージが作成されている
③	活動地域	適	5	・知床地方の山林、面積15haで、この周辺ではシマフクロウ1つがいの繁殖が確認されている ・国内でもっとも多くのシマフクロウが生息する重要な地域である ・半島の先端側の約半分ほどが国立公園や世界自然遺産として保護されているが、それ以外はほとんど法的な保護がされていない ・野鳥の会では、今後この地域を対象に野鳥保護区設置を進める計画である
④	実施主体者	適	5	・公益財団法人　日本野鳥の会
項目評価コメント		・昨年始まった知床地区の第2次植樹地区で、プロジェクトは順調に進んでいる		

2．在来種、従来種、原種管理　　適合項目数　3　評点の平均値　3.3　　評点　13　点/20点

	評価項目	適否	評点	観察事項の内容
①	樹種選定 種類、本数、産地、種の原産地	適	3	・1次植樹地区と同様のミズナラ、ヤチダモ、ハルニレ、イタヤカエデの4種類にカツラを加えた5種類を各400本で合計2,000本を計画 ・1次地区にないカツラは、北海道立林業試験場の資料によると、雪害に少し弱く、近隣の知床半島の根室海峡に面した南東の地域から根室の北地域に掛けては植樹に対して「要注意地区」となっているが、知床半島では太古の時代から自生しているなじみの深い樹種として選定 ・苗木の植栽において本数の不足があり、再植栽を実施
②	樹種の地域植生との合致性（侵入性外来種、GMO：遺伝子組換体）	適	5	・苗木の育成地は美幌町 ・仕入先は小寺種苗
③	苗木仕入先情報	適	2	・網走地区森林組合 ・苗木の「品質保証書」に樹種の記載がない

項目評価コメント	・昨年の植栽樹種の間違いに続いて、植栽本数の不足が発生している。森林組合の管理レベルの向上が望まれる。 ・苗木の「品質保証書」には、樹種を記載することが望ましい。

3．保全活動による環境負荷

適合項目数　5　評点の平均値　5.0

評点　20 点/20点

	評価項目	適否	評点	観察事項の内容
①	苗木の搬入経路	適	5	・育成地の美幌町～現地
②	苗木搬入におけるエネルギー使用量	適	5	・6月3日、普通1トン車、美幌町～現地60.0km（片道）と適切に記録されている
③	植え付け作業におけるエネルギー使用量	適	5	・6月3日の植樹作業は6人、1日で実施されており、使用した車は1.0トン車15.0km（片道）と、適切に記録されている
④	付帯作業における資材使用量	適	5	・5月に防鹿柵設置を実施し、16日間、延べ46人日で実施し、使用資材並びに使用した車、重機等と、使用資材として単管130本（1,596kg）、金網（2.4m×100×7個）等が適切に記録されている ・5月と6月に、地ごしらえ作業を植樹の前に2日間、延べ7人日で実施し、使用した車、重機、及び機器類も適切に記録されている ・7月に下刈工事を実施し、車1トン車15.0km×2、刈払機5台の使用が適切に記録されている
⑤	付帯作業におけるエネルギー使用量	適	5	・5月の防鹿柵設置は、1トン車 延べ518km、4トン車37km、12トン車延べ74kmの使用と、バックホー（4,329cc）の使用時間101.5時間が適切に記録されている ・5月と6月の地ごしらえは、1トン車延べ60km、バックホー1台8時間、刈払機（使用燃料：混合）を6台使用したことが適切に記録されている ・7月に実施された下刈工事は、1トン車30km、刈払機5台の使用が適切に記録されている

項目評価コメント	・防鹿柵設置、植樹、下刈工事などの作業について、環境負荷の把握は適切に記録されている。

4．付随的に発生する環境負荷の処置

適合項目数　2　評点の平均値　5.0

評点　20 点/20点

	評価項目	適否	評点	観察事項の内容
①	廃棄物発生量	適	5	・苗運搬用の苗木シート10枚と再植樹時の5枚は、森林組合で再利用
②	廃棄物処理	適	5	・地ならし、植樹、その他の付帯作業においても廃棄物の発生はない
③				
④				

項目評価コメント	・廃棄物の発生はなく、適切な処置がされている。

5．森、里山里林の健全度　適合項目数　5　評点の平均値　3.4　評点　14　点/20点

	評価項目	適否	評点	観察事項の内容
①	日が差し込む明るい森	適	5	・1次地区より平坦で、西側がなだらかに広く展開しており、天空は広く明るく開いている
②	植物の種類が多く、よく繁殖している	適	3	・再植樹された苗木を含めて、健全に成育している。活着生も良さそうである
③	鳥の種類が多く、さえずりがよく聞こえる	否		・森が育成されて評価する
④	落ち葉が堆積し、土壌がスポンジ状でふわふわしている	適	3	・表土は乾燥気味である。しばらくは、樹木の成育を待つ必要がある
⑤	土壌に棲む生き物が多い	適	3	・腐葉土の形成が少なく、表土は乾燥気味である。しばらくは、樹木の成育を待つ必要がある
⑥	美しく、気分が休まる	否		・森が育成されて評価する。
⑦	一本一本の木が元気で、炭素の吸収が盛ん	適	3	・苗木の活着生はとしては、よく成長している。これからが楽しみである
⑧				
項目評価コメント				・表土が露出しており、表土の流出がないように管理することが重要と思われる。

総合評価コメント

・2009年の根室地区から数えて、3回目の植樹となった第2次地区は、傾斜もゆるくひろびろとした良い土地である。表土が露出して乾燥気味のため、早く下草が茂ることを望むが、それまでは表土の流出に注意した管理が必要である。

・今回の植樹でも、苗木不足という業務の管理ミスが発生している。再作業というムダをなくすためにも管理レベルの向上が必要である。

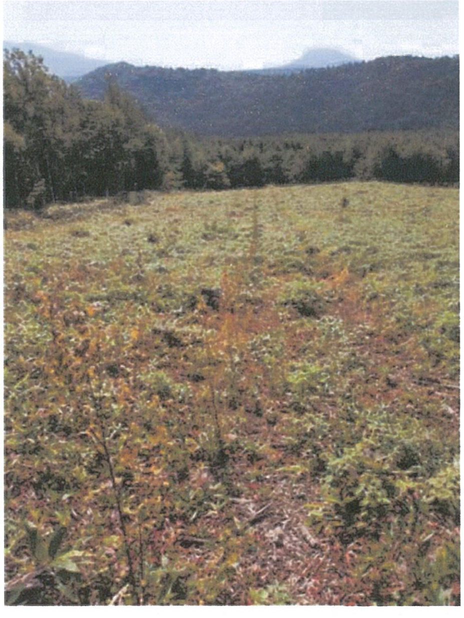
シマフクロウの森「2011年度植樹知床地区」　2011年現地検分報告書

2011年10月23日　作成
環境プランナー協議会
恒藤克彦

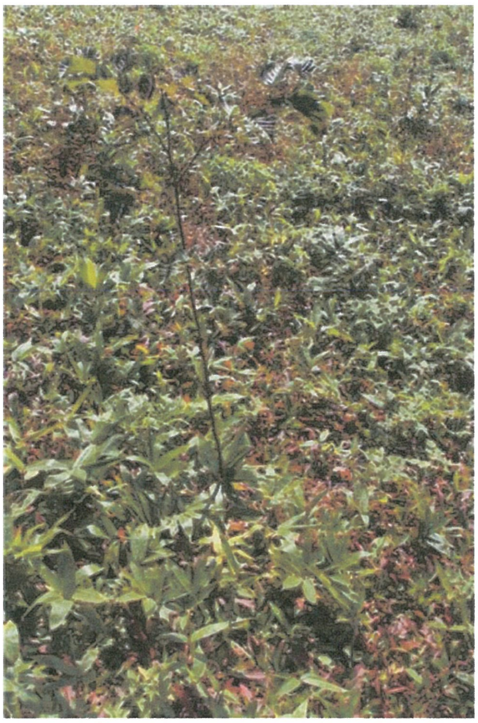
検分実施日
　2011年9月29日(木)　 10:30〜10:50　天候：晴れ

１）植樹地の概況
　今回の植樹場所は、2010年度に植樹した地区の南で一段と下がった地区である。
　　　手前が2010年度植樹地区

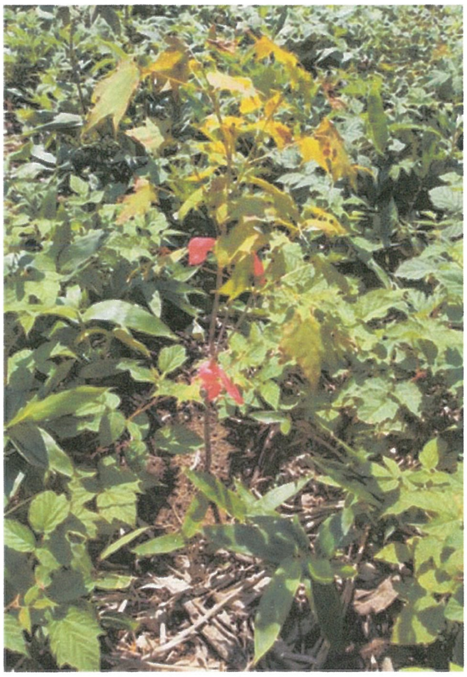
２）植樹された樹木の状況
・カツラ
　この2011年植樹地区には、これまでなかったカツラが植樹されている。



・ケヤマハンノキ



・イタヤカエデ
本数不足が発覚し、追加で植樹されたイタヤカエデ（赤いリボンが目印）



3）「千人の森キャンペーン区画」
・「寄付つきＴシャツ」購入者 1,000 人からの寄付金で、「千人の森キャンペーン区画」として 1 区画分の 100 本が植樹されている。看板が設置されている。

4）現地検分参加者
・公益財団法人　日本野鳥の会　富岡辰先氏、小畑拓也氏
・環境プランナー協議会　恒藤克彦